

どの作品展示や茶会も開かれ、大勢の来場者でにぎわった。

同連盟の寺田美恵子会長は「今まで加盟団体が一緒になって、これほど大きなイベントを開く機会がなかった。連携して文化のレベルを底上げしたい」、来場した穂積志市長は「国文祭の盛り上がりを一過性のものとせず、今後も『芸術文化の市』を掲げていきたい」と話した。

(早坂奏子)

## 空き家の利活用 特性考えPRを

### 遊学舎でセミナー

空き家の利活用をテーマにしたセミナーが31日、秋田市上北手の遊学舎で開かれ、市民ら約50人が地域に合った空き家の活用策を考えた。市民有志が今年3月に立ち上げたNPO法人住まい安心サポート秋田(佐々木義文理事長)の主催。

NPO法人秋田移住定住総合支援センターの荒谷紘毅理事長が講演。本県は8戸に1戸が空き家であると紹介し、「利活用できなければ負の遺

空き家の利活用について考えたセミナー



産でしかないが、移住者の受け皿にするなど、使い方によっては地域の財産になる」と述べた。

移住希望者が注目する空き家情報の提供には工夫が必要だと強調。「男鹿市であれば海と絡めて釣り好きに売り込むなど、地域の特徴を生かして空き家をPRすることが必要だ」と話した。

このほか、市内の空き家に暮らす県外からの移住者や、空き家をシェアオフィスとして活用する事業者らの事例を紹介した。

(石塚健悟)